

中島 一式戦闘機「隼」1型

童友社 1/100スケールプラスチックキット改造
製作・文：政府開発援助

1. 隼1型について

陸軍一式戦闘機「隼」は、傑出した運動性能と稼働率の高さを誇った傑作機・九七式戦闘機の後継として、対米決戦の機運が高まる昭和16年に正式採用された。最新鋭の本機はマレー・ビルマ方面（飛行第59戦隊及び第64戦隊）にまず配備され、搭乗員の錬度の高さもあって緒戦において華々しい戦果を挙げた。戦意高揚の為に映画「加藤隼戦闘隊」も作られている。本機は九七戦譲りの軽快な運動性と扱い易さに加えて航続力でも優れていたが、構造上翼内機銃を搭載することができず、重武装化の面で遅れを取るようになっていった。

「隼」1型は二翔プロペラと環状冷却器が外観上の特徴であり、機首武装として7.7mm機銃2門を搭載している。

2. キットについて

現在は「翼」シリーズとして展開されており、細部まで丁寧に塗り分けられたものが安価で入手可能です。但し市販されているのは「隼」2型です。旧マルサンの金型を改修したもので、繊細なモールドが施された好キットといえるでしょう。

3. 製作と塗装について

かなり以前に製作を開始した為、塗装のされていないキット版を使用しています。前述の通りキットは2型なので、1型に先祖返りさせています。プロペラブレードは一旦切り離し、金属線を芯にして二翔化しました。環状冷却器は市販のバーニア部品とプラペーパーから自作し、機首機銃バルジはプラ材で追加しました。翼端はエポキシパテにて延長し、キャノピー後半の枠を削り落として変更しています。その他、脚カバー等に定番の工作を施しています。増槽は大きく形が異なっており取付位置もおかしいので付けませんでした。

塗装はラッカー系の灰緑色・濃緑色・機体内部色（いずれも陸軍中島系と指定のあるもの）の筆塗りで塗装し、その後細部を主としてエナメル系カラーで塗り分けました。マーキングは映画にも登場した加藤隼戦闘隊長こと加藤建夫中佐の機体とし、日の丸や帯はフジミの1/72キットを元にデータを起こしてMDプリンタで自作したものを使用しています。スミ入れはエナメル系の黒～茶系統の調合色と茶系統のガンダムマーカを併用してみました。最後につや消しクリアーのスプレーを吹いています。



前方より



後方より

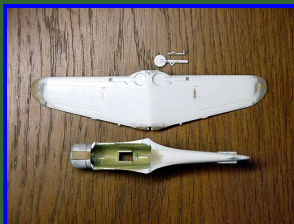
4. 途中画像



環状冷却器を正面から。プロペラは一旦切り離し補強の為に金属線を通した。



機銃のバルジと作り直した排気管の様子が見える。



翼端を延長しフラップに掛かっていた分割線を変更。増槽取付孔は塞いでいる。



キャノピー後半のモールドを削り落として変更。照準器は伸ばしランナーから。